

国語科授業案

日時 平成28年6月21日(火) 5校時

生徒 1年B組 男17名 女子17名 計34名

授業者 太田 諭

授業場 1年B組教室

1 単元名 文章の「説得力」の源を探ろう。 ～中心教材「笑顔という魔法」～

2 単元目標

「笑顔という魔法」を読み、文章に「説得力」を持たせる工夫を探り、説明する文章を作るという言語活動を通して、説明的文章の構成や論理の展開、表現の特徴を捉えることができるようにする。また、それらに着目して説明的文章を読もうとする態度を培う。

(指導事項エ 関わる言語活動例ウ)

3 単元について

(1) 教材観

人が「文学的文章」を読む場合には、作者との「感覚の共有」が重要となる。それは、作者が創造した世界や登場人物の「心理描写」や「情景描写」等から「情緒的側面」を捉えることなしに、文学的文章を読むことは不可能だからである。しかし、その「感覚」を他者に説明する場合には、あくまでも「論理的」に説明しなければならぬ。したがって、その場合に重要となるのは「論理的思考」である。

一方、説明的文章においては、筆者の「主張」を読み取るために「文章の論理」を把握することが重要となり、そのためにはやはり「論理的思考」が重要となる。また、把握した事柄を他者に説明する場合にも、「論理的思考」は不可欠となる。したがって、生徒の論理的思考を鍛えることは、国語科において極めて重要であるといえる。そのことは平成25年の文部科学省教育課程企画特別部会「論点整理」においても重視されている。また、近年の「全国学力・学習状況調査」の結果、毎年「様々な情報を適切に捉え、自分の意見を論理的に表現する力」に課題があるとされていることから明らかであろう。

論理的思考は、主に「論理的に表現された文章」の構成や論理の展開、表現の工夫等を分析することや、その上で自分の文章に活用することなどを通して鍛えられ、獲得されていくと考える。国語科の授業に置き換えると、主に、「説明的文章」を用いた「読むこと」の学習と、それを活用する「書くこと」の学習を結びつけることによって獲得されるものであると考える。しかし、論理的思考を用いるためには、その前提として、思考の材料と考えられるものを数多く抽出する「問題発見力」が重要であると考えられる。自らの論を補強するための多くの材料を発見し、それらを論理的に組み立てることで、論理的思考も強化されていると考える。

本単元の中心教材「笑顔という魔法」は、前回の教育出版教科書から掲載された説明的文章であり、中学校1年生が最初に出会う説明的文章である。内容としては、「楽しいから笑うのか、笑うから楽しいのか」という問いに対し、一般的には前者と判断されるだろうと前置きした上で、実験を通して、それを覆すものとなっている。また、結論として、人間のみには与えられた能力である「笑顔」の重要性を説く。説明的文章としては短く、簡潔平易であるため、生徒にとっては内容を読み取りやすく、興味の持てるものとなっている。また、問いと答えの関係や、問題提起と答えの関係もわかりやすいことから、1年生初期の現段階において論理の展開を読み取るには適した教材であるといえる。さらに今回の教科書においては文章の改訂がなされ、本文における実験の内容が以前よりも詳しくなるなど、より「説得力」をもった文章となっていることも、大きな特徴である。よって、両者を読み比べ

ることにより、筆者が新たにこらした工夫が、「説得力を高める」ことを意図したものであることに気づくことができるはずである。

(2) 生徒観

(3) 指導観

手だて「特定の思考過程を経由することを促し、かつ生徒の予想を覆しうる課題設定もしくは発問の工夫」

上記のことから、問題発見力・論理的思考を用いた説明的文章の読解力及び国語への関心・意欲・態度の向上を意図し、「文章の『説得力』の源を探ろう」という単元を設定した。言語活動としては、『説得力の源はこれだ』という説明文を書くこと」を設定する。

本単元における手だては、改訂前後の同教材を比較材料として用い、「筆者の変更によって説得力はどう変わったのか」を課題とした点である。統制群は、従来どおり「他の文章（『自分の頭で考える』）との比較」を通して、「説得力」の源を探ることとする。

生徒にとって、教科書教材が変化していることはおそらく想定外であろう。従って、この課題設定は「生徒の予想を覆し」、知的好奇心を喚起することを可能にすると考ええる。また、前後の文章を比較することは、単独の文章を用いる場合や、他の文章と比較する場合に比べ、生徒の思考を「前後の差異」に焦点化すると考える。このように、「前後の差異」を主な材料として論理的思考をはたらかせることを、本単元における「特定の思考過程」と押さえた。もちろん、「説得力の源」は差異だけにあるわけではなく、その他の要素から見いだすことができる。そこで、1時間目に、一読後の「説得力の源」を発見させておくこととする。

また、説得力の源を見いだすためには、文章の構成や展開（序論・本論・結論などの構成、問いと答えの関係、主張と根拠の妥当性、具体例の効果等）、表現の特徴（文体）を捉えることが必要となり、これは様々な説明的文章を理解する上での基本となると考える。そしてその行為は、問題発見力の向上につながり、論理的思考の材料を増加させると考えられる。

ただし、個人による発見には限界があるため、協同による「差異の把握」を行う。また、「説得力の評価」も個人により異なると考えられるため、交流を行うことで視点を広げていきたいと考える。

4 評価規準

関心・意欲・態度	読む能力	伝統的な言語文化と国語の特質に関する知識・理解
ア 「笑顔という魔法」の内容	ア 問いと答え，具体例，結論	ア 論理の展開に結びつく接続語

を、論理の展開・表現の工夫に着目して読もうとしている。	の関係などの文章の構成や論理の展開を捉えている。 イ 文章の構成・論理の展開について「説得力」という視点から判断している。	や指示語に着目し、文章の理解に役立てている。
-----------------------------	--	------------------------

5 単元計画（全3時間）

時	学 習 事 項	主な学習活動・手立て	評 価		
			関	読	言
1	○学習の見通しを持つ。 ○「笑顔という魔法」の文章構成・論理の展開を捉える。	○単元を通してのねらい・言語活動を知り、学習の見通しをもつ。『「笑顔という魔法」の説得力の源を探ろう。』 ○「笑顔」と「楽しさ」との関係について、自分の考えをもつ。 ○「笑顔という魔法」の文章構成・論理の展開を捉える。		ア	ア
2	○「笑顔という魔法」の改訂前後の文章を比較することによって「説得力」の源を探る。	○「笑顔という魔法」の改訂前との比較によって、違いを読み取る。 ○読み取った違いを、「説得力」という視点から分析・考察する。 ○自分たちの意見を交流することで、多様な見方・考え方があることを知り、自分の意見を深める。	ア	ア	ア
3	○「説明的文章の説得力の源はこれだ」という説明文を書く。	○「笑顔という魔法」によって学んだ、「説得力を持たせる工夫」の視点を用いて、「説明的文章の説得力の源はこれだ」という説明文をつくる。		イ	

6 本時案（2／3時間目）

(1) 本時の目標

○二つの「笑顔という魔法」を読み比べ、論理の展開や表現の違いを捉えるとともに、それらの工夫による説得力の高まりについて、自分なりに判断することができる。

(2) 本時の展開

(○…発問, △…補助発問, □…指示・説明)

主な学習活動	教師の働きかけ・ 手立て ・評価	備 考
1 本単元の学習課題を確認し、本時に行う学習の見通しをもつことができる。	○前回は「笑顔という魔法」を読みましたが、説得力の源はどこにありましたか。 □今日は、ある文章と比較することで、より深く考えていきましょう。	ワークシート配付
文章の「説得力」の源を探ろう。		

<p>2 「笑顔という魔法」バージョン①を聞き、改訂版との違いに線を引くことができる。【問題発見力】【論理的思考】</p>	<p>○では、これから文章を読みます。これは何でしょう。教科書の文章とどこが違うでしょうか。線を引いてみましょう。手だて</p>	<p>・個人 【読むア・言語ワークシート】</p>
<p>3 二つの文章の違いを三点以上指摘することができる。※下段参照</p>	<p>○二つの文章で違うところはどこでしたか。</p>	<p>・一斉 【読むア・発言】</p>
<p>4 筆者の変更によって、説得力は高まったのかそうでないのかを、理由とともに記述することができる。【論理的思考】</p>	<p>○筆者が変えたことによって、説得力はどうなりましたか。自分の考えを書きましょう。</p>	<p>・個人 【関心・観察】【読むイ・ワークシート】</p>
<p>・実験内容が詳しくなっている。・・・詳しくすることで、実験の説得力が増す。 ・ペンを縦にくわえたときは、沈んだ表情と似ています。・・・これがあることで、横にくわえたときとの違いがわかり、説得力が増す。 ・ラジオ体操の例がない。・・・あった方がわかりやすい。主張と関係が薄いので、ない方がよい。 ・これらの実験結果を見ると、・・・まとめの言葉がどこからかがわかりやすくなっている ・いかがでしょうか→したいものです・呼びかけの方が説得力がある。呼びかけない方がしつこくなく、説得力がある。など。</p>		
<p>5 班で考えを交流することによって、変更による説得力の評価がそれぞれ違うということに気づくことができる。 【批判的思考】</p>	<p>□班で、変更によって説得力がどのように変化したかを交流し、自分の判断が友人の判断と同様か確かめましょう。</p>	<p>・班 協同</p>
<p>6 全体で交流することによって、変更による説得力の評価の妥当性に気づき、修正することができる。 【批判的思考】</p>	<p>○それぞれの変更によって「説得力」は、どうなったと考えますか。 ・実験が詳細になったことによる説得力 ・沈んだ表情という記述による説得力 ・ラジオ体操が消えたことによる説得力 ・主張の文末表現の説得力 等</p>	<p>・一斉 協同</p>
<p>7 「笑顔という魔法」全体の説得力について、自分なりの根拠をもって評価することができる。また、次回行う説明文の材料とすることができる。 【論理的思考】</p>	<p>○この文章全体の「説得力」は、AとBでどちらが上でしょうか。 □次回は、「説明的文章の説得力の源はこれだ」という説明文を書きましょう。</p>	<p>・個人 【読むイ・ワークシート】</p>

7 本時案（1 / 3 時間目）

(1) 本時の目標

○「笑顔という魔法」を読み、文章構成・論理の展開（問いに対する筆者の答え・具体例・結論）を捉えることができる。

(2) 本時の展開

(○…発問, △…補助発問, □…指示・説明)

主な学習活動	教師の働きかけ・ 手立て ・評価	備考
<p>1 本単元の学習課題を知り、見通しを持つことができる。</p>	<p>□今日から3時間で、説明的文章を読み、説得力の源は何かを探っていきたいと思っています。</p>	<p>ワークシート 配付</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">文章の「説得力」の源を探ろう。</div>		
<p>2 「楽しいから笑うのか、笑うから楽しいのか」という問いについて、自分の考えを記述することができる。</p> <p>・楽しいから笑う…楽しいことがあれば笑顔になるから。 ・笑うから楽しい…楽しくなくても笑うと楽しい気分になるから。など</p>	<p>○楽しいから笑うのか、笑うから楽しいのか、どちらだと思いますか。自分の考えを、理由と共に書きましょう。</p>	<p>・個人 ・机間指導</p>
<p>3 記述したことを交流し、多様な考えがあることに気づくことができる。</p>	<p>□では、記述したことがらを発表してください。</p>	<p>・一斉 ・挙手による意見の確認</p>
<p>4 「笑顔という魔法」を正確に音読することができる。</p>	<p>□これから「笑顔という魔法」を読みます。まず、読み方の確認をしましょう。次に、自分で声を出して読んでみましょう。</p>	
<p>5 問いに対する筆者の答えを探し、で囲むことができる。</p>	<p>○筆者は、先ほどみんなが考えた問いに対してどんな答えを出しているだろう。</p>	<p>・個人 【ワークシート】</p>
<p>6 答えの根拠が、「日常の経験」と「実験」であることを指摘することができる。</p> <p>7 文章の説得力を自分なりに評価することができる。</p> <p>・2度の実験を行い、主張の根拠としている点。 ・最初に一般的な見解を述べ、後から覆している点。など</p>	<p>○その考えの根拠となっているものは何だろう。</p> <p>○この文章における説得力を持たせる工夫とはどんな点にあるだろう。</p>	

